

複素数平面と 図形



- 第1問 【図形の形をよみとる】・・・P1
- 第2問 【軌跡1】・・・P1
- 第3問 【軌跡2】・・・P2
- 第4問 【軌跡3】・・・P3
- 第5問 【軌跡4】・・・P4
- 第6問 【一直線上・直交】・・・P5
- 第7問 【図形の分析1】・・・P5
- 第8問 【図形の分析2】・・・P6
- 第9問 【図形と証明1】・・・P7
- 第10問 【図形と証明2】・・・P7
- 第11問 【図形と証明3】・・・P8
- 第12問 【図形と証明4】・・・P8
- 第13問 【応用】・・・P9
- 第14問 【反転】・・・P10
- 第15問 【1次分数変換】・・・P11

重要例題集 複素数平面と図形



第1問【図形の形をよみとる】

複素数平面上の次の3点 A, B, C について $\angle BAC$ の大きさと $\triangle ABC$ の面積を求めよ.

(1) A (0), B (2+i), C (1+3i)

(2) A (i), B ($\sqrt{3}+2i$), C ($\sqrt{3}+4i$)

<解>

$$(1) \frac{(1+3i)-0}{(2+i)-0} = \frac{(1+3i)(2-i)}{(2+i)(2-i)} = \frac{2+5i-3i^2}{2^2+1^2} \\ = \frac{5+5i}{5} = 1+i = \sqrt{2}(\cos 45^\circ + i\sin 45^\circ)$$

よって $\angle BAC = 45^\circ$

$$\text{また } AB = |2+i| = \sqrt{2^2+1^2} = \sqrt{5}, \quad AC = |1+3i| = \sqrt{1^2+3^2} = \sqrt{10}$$

$$\text{ゆえに, } \triangle ABC \text{ の面積は } \frac{1}{2} AB \cdot AC \sin \angle BAC = \frac{1}{2} \cdot \sqrt{5} \cdot \sqrt{10} \sin 45^\circ = \frac{5}{2}$$

$$(2) \frac{(\sqrt{3}+4i)-i}{(\sqrt{3}+2i)-i} = \frac{\sqrt{3}+3i}{\sqrt{3}+i} = \frac{(\sqrt{3}+3i)(\sqrt{3}-i)}{(\sqrt{3}+i)(\sqrt{3}-i)} = \frac{3+2\sqrt{3}i-3i^2}{(\sqrt{3})^2+1^2} \\ = \frac{6+2\sqrt{3}i}{4} = \frac{3+\sqrt{3}i}{2} = \sqrt{3}(\cos 30^\circ + i\sin 30^\circ)$$

よって $\angle BAC = 30^\circ$

$$\text{また } AB = |(\sqrt{3}+2i)-i| = |\sqrt{3}+i| = \sqrt{(\sqrt{3})^2+1^2} = 2,$$

$$AC = |(\sqrt{3}+4i)-i| = |\sqrt{3}+3i| = \sqrt{(\sqrt{3})^2+3^2} = 2\sqrt{3}$$

$$\text{ゆえに, } \triangle ABC \text{ の面積は } \frac{1}{2} AB \cdot AC \sin \angle BAC = \frac{1}{2} \cdot 2 \cdot 2\sqrt{3} \sin 30^\circ = \sqrt{3}$$

第2問【軌跡1】

次の等式を満たす点 z の全体は, どのような図形を描くか.

(1) $|z-3| = |z-i|$

(2) $|z+2i| = 3$

(3) $|\bar{z}-i| = 1$

(4) $(z+i)(\bar{z}-i) = 1$

<解>

- (1) 点 3 と点 i から等距離にある点の全体, すなわち 2 点 $3, i$ を結ぶ線分の垂直二等分線
- (2) 中心が点 $-2i$, 半径が 3 の円
- (3) $|\bar{z}-i|=1$ から $|\overline{z-i}|=1$ よって $|z+i|=1$
ゆえに, 中心が $-i$, 半径が 1 の円を描く.
- (4) $(z+i)(\bar{z}-i)=1$ から $(z+i)\overline{(z+i)}=1$
よって $|z+i|^2=1$ ゆえに $|z+i|=1$
したがって, 中心が点 $-i$, 半径が 1 の円を描く.

第3問【軌跡2】

点 z が, 原点 O を中心とする半径 1 の円上を動くとき, 次の等式を満たす点 w はどのような図形を描くか.

(1) $w = z + i$ (2) $w = \frac{iz + 4}{2}$

<解>

点 z は中心 O , 半径 1 の円上にあるから $|z|=1$

(1) $w = z + i$ から $z = w - i$ よって $|w - i| = 1$

ゆえに, 中心が点 i , 半径が 1 の円を描く.

(2) $w = \frac{iz + 4}{2}$ から $z = \frac{2w - 4}{i}$ よって $\left| \frac{2w - 4}{i} \right| = 1$

すなわち $2|w - 2| = |i|$ ゆえに $|w - 2| = \frac{1}{2}$

したがって, 中心が点 2 , 半径が $\frac{1}{2}$ の円を描く.

第4問【軌跡3】

次の等式を満たす点 z の全体は、どのような図形を描くか。

- (1) $z + \bar{z} = 2$ (2) $z - \bar{z} = 2i$
 (3) $z\bar{z} + iz - i\bar{z} = 3$ (4) $|z+1| = 2|z-2|$

<解>

- (1) $z = x + yi$ (x, y は実数) とおくと $\bar{z} = x - yi$
 よって、 $z + \bar{z} = 2$ から $(x + yi) + (x - yi) = 2$ ゆえに $x = 1$
 よって、点 1 を通り実軸に垂直な直線を描く。

別解 与式から $\frac{z + \bar{z}}{2} = 1$

また、2点 z, \bar{z} は実軸に関して対称である。

よって、2点 z, \bar{z} を結ぶ線分の中点が常に点 1 であるから、点 z は点 1 を通り実軸に垂直な直線を描く。

- (2) $z = x + yi$ (x, y は実数) とおくと $\bar{z} = x - yi$
 よって、 $z - \bar{z} = 2i$ から $(x + yi) - (x - yi) = 2i$
 ゆえに $yi = i$ よって $y = 1$
 ゆえに、点 i を通り虚軸に垂直な直線を描く。

別解 与式から $\frac{z + (-\bar{z})}{2} = i$

また、2点 $z, -\bar{z}$ は虚軸に関して対称である。

よって、2点 $z, -\bar{z}$ を結ぶ線分の中点が常に点 i であるから、点 z は点 i を通り、虚軸に垂直な直線を描く。

- (3) $z\bar{z} + iz - i\bar{z} = 3$ から $(z - i)(\bar{z} + i) = 4$ よって $(z - i)\overline{(z - i)} = 4$
 ゆえに $|z - i|^2 = 4$ よって $|z - i| = 2$
 したがって、中心が点 i 、半径が 2 の円を描く。

- (4) $|z+1| = 2|z-2|$ から $|z+1|^2 = 4|z-2|^2$
 よって $(z+1)(\bar{z}+1) = 4(z-2)(\bar{z}-2)$
 両辺を展開して整理すると $z\bar{z} - 3(z + \bar{z}) + 5 = 0$
 ゆえに $(z-3)(\bar{z}-3) = 4$ よって $|z-3|^2 = 4$ ゆえに $|z-3| = 2$
 したがって、中心が点 3 、半径が 2 の円を描く。

参考 点 z はアポロニウスの円 (2点 $-1, 2$ からの距離の比が $2:1$) 上にあることがわかる。

第5問【軌跡4】

点 z が、原点 O を中心とする半径 1 の円上を動くとき、次の点 w はどのような図形を描くか。

(1) $w = \frac{1+i}{z}$

(2) $w = \frac{z+i}{z+1}$

(3) $w = \frac{6z-1}{2z-1}$

<解>

点 z は中心 O 、半径 1 の円上にあるから $|z|=1$ …… ①

(1) $w = \frac{1+i}{z}$ から $w \neq 0$ で $z = \frac{1+i}{w}$

よって、① から $\left| \frac{1+i}{w} \right| = 1$

ゆえに $|1+i|=|w|$ よって $|w|=\sqrt{2}$

したがって、中心が原点、半径が $\sqrt{2}$ の円を描く。

(2) $w = \frac{z+i}{z+1}$ から $(z+1)w = z+i$ ゆえに $z(w-1) = -w+i$

$w=1$ は等式を満たさないから $w \neq 1$ で $z = \frac{-w+i}{w-1}$

よって、① から $\left| \frac{-w+i}{w-1} \right| = 1$

ゆえに $|-w+i|=|w-1|$ すなわち $|w-i|=|w-1|$

したがって、点 w と 2 点 $i, 1$ との距離が等しいから、点 w は 2 点 $i, 1$ を結ぶ線分の垂直二等分線を描く。

(3) $w = \frac{6z-1}{2z-1}$ から $(2z-1)w = 6z-1$ ゆえに $2z(w-3) = w-1$

$w=3$ は等式を満たさないから $w \neq 3$ で $z = \frac{w-1}{2(w-3)}$

よって、① から $\left| \frac{w-1}{2(w-3)} \right| = 1$ ゆえに $|w-1|=2|w-3|$

両辺を平方して $|w-1|^2 = 4|w-3|^2$

よって $(w-1)(\bar{w}-1) = 4(w-3)(\bar{w}-3)$

両辺を展開して整理すると $w\bar{w} - \frac{11}{3}(w+\bar{w}) + \frac{35}{3} = 0$

ゆえに $\left(w - \frac{11}{3}\right)\left(\bar{w} - \frac{11}{3}\right) = \frac{16}{9}$

よって $\left|w - \frac{11}{3}\right|^2 = \frac{16}{9}$ したがって $\left|w - \frac{11}{3}\right| = \frac{4}{3}$

よって、中心が点 $\frac{11}{3}$ 、半径が $\frac{4}{3}$ の円を描く。

【参考】 $|w-1|=2|w-3|$ であるから、点 w はアポロニウスの円 (2 点 $1, 3$ からの距離の比が $2:1$) 上にあることがわかる。

第6問【一直線上・直交】

4点 $A(3+2i)$, $B(6-i)$, $C(c+6i)$, $D(d-4i)$ とする.

- (1) 3点 A , B , C が一直線上にあるように, 実数 c の値を定めよ.
(2) (1) で求めた c の値に対して, 2直線 BC , BD が垂直に交わるように, 実数 d の値を定めよ.

<解>

$\alpha=3+2i$, $\beta=6-i$, $\gamma=c+6i$, $\delta=d-4i$ とする.

- (1) 3点 A , B , C が一直線上にあるとき, $\frac{\gamma-\alpha}{\beta-\alpha}$ が実数となる.

$$\begin{aligned} \text{ここで} \quad \frac{\gamma-\alpha}{\beta-\alpha} &= \frac{(c+6i)-(3+2i)}{(6-i)-(3+2i)} = \frac{c-3+4i}{3(1-i)} = \frac{(c-3+4i)(1+i)}{3(1-i)(1+i)} \\ &= \frac{c-3+(c+1)i+4i^2}{3(1^2+1^2)} = \frac{c-7+(c+1)i}{6} \end{aligned}$$

これが実数であるから $c+1=0$ よって $c=-1$

- (2) (1) から $\gamma=-1+6i$

2直線 BC , BD が垂直に交わる時, $\frac{\delta-\beta}{\gamma-\beta}$ が純虚数となる.

$$\begin{aligned} \text{ここで} \quad \frac{\delta-\beta}{\gamma-\beta} &= \frac{(d-4i)-(6-i)}{(-1+6i)-(6-i)} = \frac{d-6-3i}{7(-1+i)} = \frac{(d-6-3i)(-1-i)}{7(-1+i)(-1-i)} \\ &= \frac{-d+6+(9-d)i+3i^2}{7\{(-1)^2+1^2\}} = \frac{3-d+(9-d)i}{14} \end{aligned}$$

これが純虚数であるから $3-d=0$ かつ $9-d \neq 0$ よって $d=3$

第7問【図形の分析1】

複素数平面上の異なる3点 $O(0)$, $A(\alpha)$, $B(\beta)$ について, 次の等式が成り立つとき, 三角形 OAB はどのような三角形か.

- (1) $\alpha^2 + \beta^2 = 0$ (2) $\alpha^2 - 2\alpha\beta + 2\beta^2 = 0$

<解>

(1) $\alpha^2 + \beta^2 = 0$ から $(\alpha + i\beta)(\alpha - i\beta) = 0$ よって $\alpha = \pm i\beta$

ゆえに $\alpha = \beta(\cos 90^\circ + i\sin 90^\circ)$ または $\alpha = \beta\{\cos(-90^\circ) + i\sin(-90^\circ)\}$

したがって、点 A は点 B を、点 O を中心として 90° または -90° だけ回転した点である。よって、三角形 OAB は辺 AB を斜辺とする直角二等辺三角形である。

(2) B は O と異なるから $\beta \neq 0$

ゆえに、 $\alpha^2 - 2\alpha\beta + 2\beta^2 = 0$ の両辺を $\beta^2 (\neq 0)$ で割って

$$\left(\frac{\alpha}{\beta}\right)^2 - 2 \cdot \frac{\alpha}{\beta} + 2 = 0$$

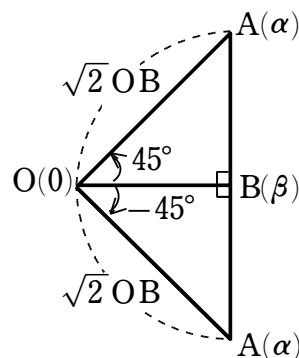
これを $\frac{\alpha}{\beta}$ について解くと $\frac{\alpha}{\beta} = 1 \pm i$

ゆえに $\alpha = \beta(1 + i) = \sqrt{2}\beta(\cos 45^\circ + i\sin 45^\circ)$

または $\alpha = \beta(1 - i) = \sqrt{2}\beta\{\cos(-45^\circ) + i\sin(-45^\circ)\}$

したがって、 $\angle AOB$ の大きさは 45° であり、かつ $OA = \sqrt{2}OB$

したがって、三角形 OAB は辺 OA を斜辺とする直角二等辺三角形である。



第8問【図形の分析2】

複素数平面上の異なる3点 A(α), B(β), C(γ)の間に、次の関係があるとき、この3点を頂点とする三角形 ABC は、どのような三角形か。

(1) $\frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha} = \sqrt{3}i$

(2) $\alpha + i\beta = (1 + i)\gamma$

<解>

(1) $\frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha} = \sqrt{3}i$ から $\frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha} = \sqrt{3}(\cos 90^\circ + i\sin 90^\circ)$

よって $\angle BAC = 90^\circ$

また、 $\left|\frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha}\right| = \sqrt{3}$ であるから $|\gamma - \alpha| = \sqrt{3}|\beta - \alpha|$

ゆえに $AC = \sqrt{3}AB$

したがって、三角形 ABC は $\angle A = 90^\circ$, $\angle B = 60^\circ$, $\angle C = 30^\circ$ の直角三角形である。

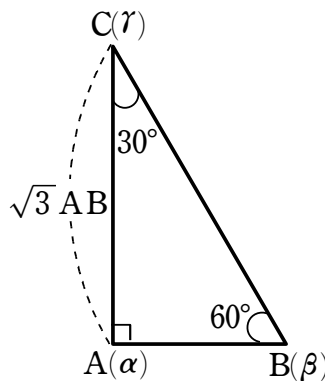
(2) $\alpha + i\beta = (1 + i)\gamma$ から $\alpha - \gamma = -i(\beta - \gamma)$

$\beta \neq \gamma$ であるから $\frac{\alpha - \gamma}{\beta - \gamma} = -i$

ゆえに $\frac{\alpha - \gamma}{\beta - \gamma} = \cos(-90^\circ) + i\sin(-90^\circ)$ よって $\angle ACB = 90^\circ$

また、 $\left|\frac{\alpha - \gamma}{\beta - \gamma}\right| = 1$ であるから $|\alpha - \gamma| = |\beta - \gamma|$ ゆえに $CA = CB$

したがって、三角形 ABC は点 C を直角の頂点とする直角二等辺三角形である。



第9問【図形と証明1】

複素数 $\alpha, \beta, \gamma, \delta$ を表す点を、それぞれ A, B, C, D とするとき、 $\alpha + \gamma = \beta + \delta$,
 $\delta - \alpha = i(\beta - \alpha)$ ならば、四角形 ABCD は正方形であることを証明せよ。

<解>

$$\alpha + \gamma = \beta + \delta \text{ から } \frac{\alpha + \gamma}{2} = \frac{\beta + \delta}{2}$$

よって、四角形 ABCD の対角線 AC, BD の中点が一致する。

ゆえに、四角形 ABCD は平行四辺形である。

$$\text{また、} \delta - \alpha = i(\beta - \alpha), \alpha \neq \beta \text{ から } \frac{\delta - \alpha}{\beta - \alpha} = i \quad \dots\dots \text{①}$$

i は純虚数であるから、2 直線 AD, AB は垂直に交わる。

$$\text{よって } \angle BAD = 90^\circ$$

$$\text{更に、① から } \left| \frac{\delta - \alpha}{\beta - \alpha} \right| = 1$$

$$\text{ゆえに } |\delta - \alpha| = |\beta - \alpha| \quad \text{したがって } AD = AB$$

以上から、四角形 ABCD は正方形である。

第10問【図形と証明2】

複素数平面上の異なる3点 O(0), A(α), B(β) について、 $\alpha\bar{\beta} + \bar{\alpha}\beta = 0$ が成り立つとき、 $OA \perp OB$ であることを示せ。

<解>

$$A \text{ は } O \text{ と異なるから } \alpha \neq 0$$

$$\alpha\bar{\beta} + \bar{\alpha}\beta = 0 \text{ の両辺を } \alpha\bar{\alpha} (\neq 0) \text{ で割ると } \frac{\bar{\beta}}{\alpha} + \frac{\beta}{\alpha} = 0$$

$$\text{よって } \overline{\left(\frac{\beta}{\alpha}\right)} = -\frac{\beta}{\alpha} \text{ が成り立ち、} \frac{\beta}{\alpha} \neq 0 \text{ であるから、} \frac{\beta}{\alpha} \text{ は純虚数である。}$$

$$\text{ゆえに、2 直線 } OA, OB \text{ が垂直に交わる。すなわち } OA \perp OB$$

第 11 問【図形と証明 3】

異なる 3 点 α , β , γ が同一直線上にあるとき,

$$\overline{\alpha}(\beta - \gamma) + \overline{\beta}(\gamma - \alpha) + \overline{\gamma}(\alpha - \beta) = 0$$

が成り立つことを証明せよ.

<解>

異なる 3 点 α , β , γ が同一直線上にあるから, $\beta - \alpha \neq 0$ であり, $\frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha}$ が実数である.

よって $\frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha} = \overline{\left(\frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha}\right)}$ すなわち $\frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha} = \frac{\overline{\gamma} - \overline{\alpha}}{\overline{\beta} - \overline{\alpha}}$

分母を払って $(\gamma - \alpha)(\overline{\beta} - \overline{\alpha}) = (\overline{\gamma} - \overline{\alpha})(\beta - \alpha)$

ゆえに $(\gamma - \alpha)\overline{\beta} - (\gamma - \alpha)\overline{\alpha} = \overline{\gamma}(\beta - \alpha) - \overline{\alpha}(\beta - \alpha)$

したがって $\overline{\alpha}(\beta - \gamma) + \overline{\beta}(\gamma - \alpha) + \overline{\gamma}(\alpha - \beta) = 0$

第 12 問【図形と証明 4】

単位円上の異なる 3 点 $A(\alpha)$, $B(\beta)$, $C(\gamma)$ と, 円上にない点 $H(z)$ について, 等式 $z = \alpha + \beta + \gamma$ が成り立つとき, H は $\triangle ABC$ の垂心であることを示せ.

<解>

点 $A(\alpha)$, $B(\beta)$, $C(\gamma)$ は単位円上にあるから

$$|\alpha| = |\beta| = |\gamma| = 1 \quad \text{すなわち} \quad \alpha\bar{\alpha} = \beta\bar{\beta} = \gamma\bar{\gamma} = 1$$

ゆえに
$$\bar{\alpha} = \frac{1}{\alpha}, \quad \bar{\beta} = \frac{1}{\beta}, \quad \bar{\gamma} = \frac{1}{\gamma}$$

また
$$z = \alpha + \beta + \gamma$$

$$AH \perp BC \iff \frac{\gamma - \beta}{z - \alpha} \text{ が純虚数} \iff \frac{\gamma - \beta}{z - \alpha} + \overline{\left(\frac{\gamma - \beta}{z - \alpha}\right)} = 0, \quad \frac{\gamma - \beta}{z - \alpha} \neq 0 \dots\dots \textcircled{1}$$

であるから、 $\textcircled{1}$ を示す。

$z - \alpha = \beta + \gamma$ であるから

$$\begin{aligned} \frac{\gamma - \beta}{z - \alpha} + \overline{\left(\frac{\gamma - \beta}{z - \alpha}\right)} &= \frac{\gamma - \beta}{\beta + \gamma} + \overline{\frac{\gamma - \beta}{\beta + \gamma}} = \frac{\gamma - \beta}{\beta + \gamma} + \frac{\bar{\gamma} - \bar{\beta}}{\bar{\beta} + \bar{\gamma}} \\ &= \frac{\gamma - \beta}{\beta + \gamma} + \frac{\frac{1}{\gamma} - \frac{1}{\beta}}{\frac{1}{\beta} + \frac{1}{\gamma}} = \frac{\gamma - \beta}{\beta + \gamma} + \frac{\beta - \gamma}{\gamma + \beta} = 0 \end{aligned}$$

また、 A , B , C , H はすべて異なる点であるから
$$\frac{\gamma - \beta}{z - \alpha} \neq 0$$

よって、 $\textcircled{1}$ が成り立つから $AH \perp BC$ 同様にして $BH \perp CA$

したがって、 H は $\triangle ABC$ の垂心である。

第13問【応用】

互いに異なる3つの複素数 α , β , γ の間に、等式

$$\alpha^3 - 3\alpha^2\beta + 3\alpha\beta^2 - \beta^3 = 8(\beta^3 - 3\beta^2\gamma + 3\beta\gamma^2 - \gamma^3)$$

が成り立つとする。

(1) $\frac{\alpha - \beta}{\gamma - \beta}$ を求めよ。

(2) 点 $A(\alpha)$, $B(\beta)$, $C(\gamma)$ が同一直線上にないとき、それらを頂点とする三角形はどのような三角形か。

<解>

(1) 等式から $(\alpha - \beta)^3 = -8(\gamma - \beta)^3$ $\beta \neq \gamma$ であるから $\left(\frac{\alpha - \beta}{\gamma - \beta}\right)^3 = -8$

$z = \frac{\alpha - \beta}{\gamma - \beta}$ とおくと $z^3 = -8$ ゆえに $(z + 2)(z^2 - 2z + 4) = 0$

これを解いて $z = -2, 1 \pm \sqrt{3}i$

よって $\frac{\alpha - \beta}{\gamma - \beta} = -2, 1 \pm \sqrt{3}i$

(2) 3点 A, B, C が同一直線上にないから, $\frac{\alpha - \beta}{\gamma - \beta}$ は実数ではない.

ゆえに $\frac{\alpha - \beta}{\gamma - \beta} = 1 \pm \sqrt{3}i$

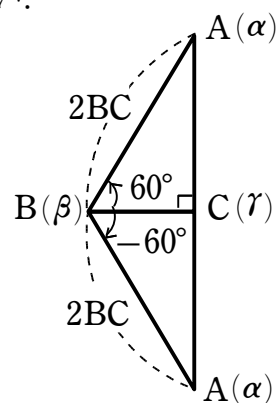
すなわち $\frac{\alpha - \beta}{\gamma - \beta} = 2\{\cos(\pm 60^\circ) + i\sin(\pm 60^\circ)\}$ (複号同順)

よって, $\angle ABC$ の大きさは 60°

また, $\left|\frac{\alpha - \beta}{\gamma - \beta}\right| = 2$ であるから $|\alpha - \beta| = 2|\gamma - \beta|$

よって $AB = 2BC$

ゆえに, $\triangle ABC$ は $\angle A = 30^\circ, \angle B = 60^\circ, \angle C = 90^\circ$ の直角三角形



第14問【反転】

複素数平面上の点 A (1) を通り, 実軸に垂直な直線上の点を z とする. $w = \frac{1}{z}$ とするとき, 点 w はどのような図形上にあるか.

<解>

条件より, z は 2 点 0, 2 を結ぶ線分の垂直二等分線上にあるから

$$|z| = |z - 2| \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

また, $w = \frac{1}{z}$ から $w \neq 0$ で $z = \frac{1}{w}$

これを $\textcircled{1}$ に代入して $\left|\frac{1}{w}\right| = \left|\frac{1}{w} - 2\right|$ よって $\frac{1}{|w|} = \frac{|1 - 2w|}{|w|}$

ゆえに $|2w - 1| = 1$ したがって $\left|w - \frac{1}{2}\right| = \frac{1}{2}$

よって, 点 w は中心が点 $\frac{1}{2}$, 半径が $\frac{1}{2}$ の円上にある. ただし, 原点を除く.

第 15 問 【1 次分数変換】

複素数平面上において、 z は原点 O を中心とする半径 1 の円上を動くとする。

$$w = \frac{z-i}{z-1-i} \text{ とおくとき}$$

- (1) 点 w はどのような図形を描くか。
 (2) $|w|$ の最大値と、そのときの z の値を求めよ。

<解>

$$(1) \quad w = \frac{z-i}{z-1-i} \text{ から} \quad (z-1-i)w = z-i$$

$$\text{よって} \quad (w-1)z = w + (w-1)i$$

$$w=1 \text{ は等式を満たさないから} \quad w \neq 1$$

$$\text{ゆえに} \quad z = \frac{w}{w-1} + i \quad \cdots \cdots \textcircled{1}$$

$$|z|=1 \text{ であるから、} z\bar{z}=1 \text{ に代入して} \quad \left(\frac{w}{w-1} + i\right)\left(\frac{\bar{w}}{\bar{w}-1} - i\right) = 1$$

$$\text{ゆえに} \quad \{w + i(w-1)\}\{\bar{w} - i(\bar{w}-1)\} = (w-1)(\bar{w}-1)$$

$$\text{よって} \quad w\bar{w} + \{\bar{w}(w-1) - w(\bar{w}-1)\}i = 0$$

$$\text{ゆえに} \quad w\bar{w} + (w - \bar{w})i = 0$$

$$\text{よって} \quad (w-i)(\bar{w}+i) = 1 \quad \text{すなわち} \quad (w-i)\overline{(w-i)} = 1$$

$$\text{よって、} |w-i|^2 = 1 \text{ から} \quad |w-i| = 1$$

したがって、点 w の描く図形は、中心が点 i 、半径が 1 の円

- (2) 絶対値 $|w|$ は原点と点 w との距離であるから、 $|w|$ が最大となるのは、2 点 0 、 w を結ぶ線分が、(1) で得られた円の直径となるときである。

したがって、 $w=2i$ のとき最大で、最大値は 2 である。

$$\textcircled{1} \text{ に } w=2i \text{ を代入すると} \quad z = \frac{2i}{2i-1} + i = \frac{2i(2i+1)}{(2i-1)(2i+1)} + i = \frac{4}{5} + \frac{3}{5}i$$

以上から、 $|w|$ は $z = \frac{4}{5} + \frac{3}{5}i$ のとき最大値 2 をとる。